

《冒頭コメント1. エンジン01文化戦略会議「オープンカレッジ in 大分」》

1月26日から28日までエンジン01文化戦略会議「オープンカレッジ in 大分」がありましたので、報告をさせていただきたいと思います。

153人の講師に出席いただき、講座が143講座、来場者数が3日間合わせて1万9,150人となりました。前々回が延岡、前回は水戸だったのですが、延岡は1万7,000人、水戸は1万8,000人とのことで、それよりもかなり多い方々にご参加をいただきました。

来場者について、県内、県外で見ますと、一般講座は、県外の方が8.3%で、あとは県内の方だったのですが、レストラン等で講師の方と楽しく酒食をともにしながら意見交換をする「夜楽」は、県外の方が24.4%と、4人に1人は県外の方に参加いただいています。

参加された方々の声を聞きますと、非常に心に残る大変すばらしいイベントで、著名人といろいろな意見交換ができてよかったという、積極的なご意見をいただいています。講師の方々からも、大分に来てみて、古来から日本の未来を切り開いてきた大分だからこそ、今後も多くの人材が輩出されると思われ明るいのではないかという意見や、東京であれだけの講師と一緒に集まることはなかなかないので、講師同士の交流ができてよかった、バリアフリー・ファッション・パーティが非常によかったなど、いろいろな積極的な評価をいただいております。

林真理子さんが週刊文春にいろいろ書いてくれています。指原莉乃さんが出て、それを報道で大きく取り上げていただいたので、2日目以降、さらに参加者が増えたということが書いてありました。確かに初日のオープニングのときは1,500人でしたが、3日目のクロージングの2つのシンポジウムは、それぞれ1,700人、1,800人と2~300人増えています。1日目の開催の状況をテレビ・新聞等で大きく報道していただいたことが2日目以降に効いたということかと思います。一般講座等はほぼ満席、夜楽は満席になっていたのではないかと思います。

国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭において、大分市は出会いの場を担当しますが、出会いの場の先駆けのイベントとしても非常に大きな効果があったのではないかと考えています。

ちなみに、これは市の予算が2,500万円、県の予算が1,500万円でしたが、講師の方々には全部ボランティアということで無償で来ていただいております。もし講師の方々へ謝金を払ったとしたらどれぐらいのイベント規模になるかという計算をしますと、2億円ぐらいの規模になると思われそうです。今回、そういうイベントを県と市合わせて4,000万円、それに協賛金の1,600万円という予算で行ったわけです。まだ、決算は終わっていませんが、そういう予算でこのようなイベントができたことは、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の先駆けとしても非常に効果があったかと思っています。

また、大分青年会議所、大分商工会議所青年部、大分市工業連合会青年部会、

および大分県咸宜会、そういう方々が緑のジャンパーを着て、寒い中、全くのボランティアで取り組んでくださいました。そういう方々のご尽力もありまして、開催をして非常によかったと思っております。

《 1. 平成30年度当初予算（案） 》

まず、予算の規模ですが、一般会計は1,807億3,700万円、前年度比1.2%増ということで、一般会計の規模としては過去最大になっています。そして、特別会計が8.6%減、水道事業会計が4.4%減、下水道事業会計が5.6%増を入れまして、全部の合計が2.0%の減となっております。

国民健康保険が新年度より県へ移管される関係で、特別会計が100億円の規模で減少しています。その影響が非常に大きく、全体としてはマイナスになっています。

次に、新規事業43件、拡充事業は38件で、特徴としては、社会保障関係費が22億7,000万円の増、前年度比4.4%の増で伸びており、保育所等給付費については、待機児童の解消に向けた定員の増等により13億7,000万円の増、そして、障害児通所支援等ですが、これは放課後等デイサービスといった事業を障がい児の方が利用した際に給付費という形で措置をしており、その費用が7億6,000万円の増ということです。

そして、普通建設事業ですが、中学校空調設備整備事業等が29年度3月補正予算で9億円、これは、文部科学省からの補助の関係で本年度事業に繰り上がったものです。30年度当初予算としては、保育所等の児童福祉施設整備事業、本庁舎耐震性能増強事業等で248億円の増となっており、あわせて257億円を確保しています。

予算を組むに当たり、昨年度と同様ですが、財政調整基金と市有財産整備基金をそれぞれ15億円ずつ活用しています。

そして、収支のプライマリーバランスについては、14億円の黒字ということで、収支の健全性を保った形の予算となっています。

重点政策事項として、従来と同様に「3つの創造」ということで、「誰もが安心して笑顔で暮らせる社会の創造」「産業力の強化による活力の創造」「次なる時代を見据えた新たな魅力の創造」につきまして、それぞれご説明したいと思っておりますが、この3つにバランスよく予算を配分した形になっていると考えています。

まず、「誰もが安心して笑顔で暮らせる社会の創造」です。

1番目が、災害に強いまちづくりの推進ということで、建築物の耐震化、避難所の環境整備、自主防災組織の活性化というものをに入れております。

建築物の耐震化については、本庁舎の防災拠点としての機能を確保することから、耐震性を高める増強工事を行うこととしています。特定建築物というのは民間施設で多くの人が集まるところのことで、今まではホテルやトキハ本店を助成していましたが、今回はトキハインダストリーの南大分支店が耐震化工事に入る

ことから、その予算を計上しています。また、木造住宅・店舗や避難所にもなる公民館等で耐震が十分でないところがありますので、ここに4億9,600万円の予算を計上しています。

避難所の環境整備については、津波緊急避難施設ということで、鶴崎の三佐地区にある松原緑地は土地が海拔4メートルほどと非常に低く、津波が来てから逃げるまでの時間がないことから、海拔10メートルの高台を整備します。通常は市民の皆さんの憩いの場所として使っていただき、津波が襲ってきたときにはそこに緊急避難をしていただきます。命山と呼ばれるもので、本年度、設計が終わりましたので、来年度はいよいよ完成するという事で予定しています。そして、応急給水拠点とは、指定避難所125カ所に給水タンクがありますが、そこから直接取水できるように整備するという事で、受水槽に40カ所ほど蛇口をつける予定にしています。避難所の看板は、蛍光塗料等を使い視認性を高めるといことと、救援物資については、かなり整備ができて、食料等で期限が来るものがありますので、その入れ替え等の予算でございます。

自主防災組織の活性化についてですが、本年度は「我が家の防災マニュアル」に、新しく北朝鮮の弾道ミサイルへの対処や伊方原発の情報も入れてつくってありまして、3月31日までに各家庭に配布いたします。来年度は、地域の防災という観点から、地域ごとに自治会や防災士、消防団などの防災を行う組織がありますが、その活動のための自主防災組織活動マニュアルをつくります。そして、防災士の皆さんで集まって連携を図る協議会の拡充、それから、自主防災組織のさまざまな活動に対して補助を行うという予算を計上しています。

次に、2番目の子ども・子育て支援の充実についてです。

まず、私立認可保育所等の定員拡大です。本年度も力を入れてきて、新年度予算については、この施設整備に対する補助等で15億1,700万円、440名の定員増を図ることとしていますが、本年度は、この数字が22億9,200万8,000円、約1,000人の定員増でした。この約1,000人の定員増で、4月1日には待機児童がゼロになるかと思っていましたが、0～2歳児、特に1～2歳で、育児休業明けの方々のニーズが予想よりもはるかに多いことが分かってきて、待機児童がゼロになるかどうか、今、調整をしているところです。新年度についても、さらにニーズが増えてくることを見越して、定員拡充を図っていきたいと思います。

それから、子どもの生活実態調査ですが、子どもの貧困対策を進めていくための調査を行うということで、600万円でございます。

新生児の聴覚検査は、厚生労働省からの通知もあり、生まれたときにちゃんと聞こえているかどうかの検査を新たに行うことにしています。

それから、1歳児のおたふくかぜワクチンですが、おたふくかぜにかかる、ムンプス難聴といって難聴になる方がかなりの程度出てきます。ワクチンでおたふくかぜの予防をすると、かからずに済む方が増えるということで、市連合医師会からの要請もあり、予防接種には1人当たり5,000円～6,000円かかる

ところ、その半額程度の3,000円の助成を新たに取り組むことにしています。

次に、3番目の豊かな心とたくましく生きる力をはぐくむ教育です。

まず、情報化やグローバル化の進展への対応ですが、プログラミング教育と英語が32年度に教科になるので、それに向けていろいろな準備をしていく必要があることから、プログラミング教育推進のためのタブレット等の整備や、英語圏の若い青年たちを助手として学校に配置する外国語指導助手を、現在の21名から5名増やして、26人の配置を予定しています。

それから、外部人材の活用ということでは、特に学校の先生が真に子どもと向き合える時間を確保することが大変重要である一方で、非常なオーバーワークになっていると言われています。そこで、スクールサポートスタッフとして、例えば、コピーをしたり、教材を準備するスタッフを配置する。部活動については、その部活動の専門の指導員を配置する。そして、教職員出退の管理では、タイムレコーダーの導入をしていくという形で、教職員の業務の適正化を図っていくことを進めていく予定にしています。

そして、確かな学力の向上では、退職した校長先生等で熱意を持って若い先生方の指導をやってくださる方々を教科指導マイスターとして学校に派遣する仕組みがあり、その教科指導マイスターが現在英語と数学が3人ずつ、理科が2人いるのですが、これに加えて、国語が2人、理科をもう1人の計11人にしようとするものです。

それから、いじめ・不登校等未然防止対策ですが、学校現場ではさまざまな課題がありますので、それぞれの子どもたちの心の持ちようやどんなトラブルがあるかについて、学級集団検査hyper-QUを今年度は年1回、学級ごとに行っています。これを新年度は半年に1回の年2回行うこととし、また、心理学等の専門家のスクールソーシャルワーカーを学校に派遣していますが、現在20人のところを25人に増やす予定にしています。

未来自分創造資金は、大分市が独自で行っている贈与型奨学金です。貧困家庭のお子さんで、進学の見込みも能力もあるけれども進学できないという方々に対し、奨学金の貸与型を使うと借入れが残ってしまうため、できるだけ贈与型のものを増やそうということです。中学3年生のときに募集し、高校3年間支援するのですが、現在25名のところを50名に増やして、意欲のある子どもたちへ贈与型の奨学金で支援していく予定です。

次に、4番目の高齢者福祉・障害者福祉の充実です。

高齢者の方などで、認知症等により後見人が必要となった場合に成年後見制度がありますが、どうやって頼めばいいのか、どういうことを頼めるのかといった相談事業や、そもそも啓発も必要ですので、J:COM ホルトホール内に成年後見センターを設置し、10月1日ごろに開設して、成年後見制度を活用したいという方々の相談事業や啓発事業を行う予定にしています。

障がい者等衣服相談アドバイザーは、障がいのある方もファッションを整え

て、外に出ていっていろいろな活躍をしようという意欲のある方からの相談に対しアドバイスをする事業を、新たにスタートさせる予定にしています。

次に、「産業力の強化による活力の創造」です。

まず、1番目の中小企業の経営基盤の強化では、クリエイティブ産業の育成として、デザインやアートを活用して付加価値の高い商品の開発につなげていこうということです。講演会や交流会、コンテストなどを行う予算を750万円としています。

それから、大分市の中小企業で、きらりと光る、全国あるいは世界のニッチトップがたくさんありますが、そういう企業の先進事例集をつくって、これから伸びていく企業の参考にしてもらおうというのが2つ目です。

販路拡大に対する支援については、展示会、見本市等への助成、それから大分市ブースを設置したいと考えておりますし、経営力強化に対する支援では、これまで研修、知財の支援は1社年間1回のところを上限50万円でも何回でも、としています。知的財産権の関係は特にニーズが多いので、そのための予算を増やしています。

それから、海外向けのインターネット取引サイトへの出店、海外展開に対してジェトロ大分や県と連携した支援を広げていきます。

次に、企業立地の推進についてです。

企業立地促進助成金ということで、現時点での申請予定について3億8,432万8,000円の措置をしていますが、さらにいろいろな相談が来ておりますので、私どもとしては、このニーズはかなり増えてくるのではないかと期待をしています。

3番目は、農林水産業の振興です。

まず、有機農産物等認証取得への支援です。工業の場合だとISOなどがありますが、これと同じように、農業にはGAPという認証があります。農業の生産行程においてGAPの認証を得ますと、非常に高品質で安全な農産物だということが証明されます。この認証を取得するためのセミナーや支援の措置をすることです。

それから、農業体質強化のための基盤整備の促進では、まずは水田を畑地へ集積して、商品価値の高いものに変えていきます。今回は上判田で予定をしまして、水田を畑地に変えるときに必要となる工事や、農地を集積するときの交付金などの計上です。それから、経営体育成基盤整備では、現在、宮河内の水田を収益性の高いニラなどに変えていき、企業が参入して企業的な経営で行っていく予定で、県等と連携をしながら、大規模な商業作物の生産基盤を整備していくこととしています。

また、里山の保全や竹林整備への助成ということで、タケノコや竹を使った製品の開発に対しての助成を新たに行うことにしています。

担い手確保では、農業や林業に新規就業する方などに対して賃金に相当するものを支援していきます。既にイチゴや漁業についても行っていますが、このよう

な支援を広げていきます。そして、野津原で行っている農業塾を引き続き開催していく予定にしています。

それから、おおいた製品の創出・魅力発信では、大分のさまざまな産品をブランド化して、全国に販売をしていきます。さらに、由布市や豊後大野市と大分都市広域圏で連携をしていきたいと思っています。

そして、クロメの養殖、関あじ・関さばの蓄養ですが、養殖を広げていくことにより安定的に供給できるということで、県と連携をしながら進めていきます。

大分市産の木材利用の促進については、市産材を使って家を建てる時の補助の上限を10万円から20万円に増やすことと、竹林の整備ということで、新たに800万円の措置をしており、拡充をしながら進めていく予定にしています。

有害鳥獣の対策につきましては、ミカン、イチジク、ビワなどの畑では、防護柵の設置に対する補助金を交付しています。それとあわせて、箱わな等での捕獲と、捕獲したイノシシ等の肉をジビエで活用することも進めていきます。

次に、4番目の、豊の都市（まち）おおいたの魅力発信で、3つ掲げています。

まず、インバウンドで韓国、中国、台湾から訪れる方々に対して、今までクーポン等を発行して宿泊費用の支援をしており、これは引き続き行っています。さらに、おもてなしとPRということで、大分の観光の魅力の発信、あるいは英語等でのおもてなしができるようにパンフレットやガイドマップの作成を予定しています。

それから、観光リーディングプロジェクトとして、例えば大分駅を基点として、観光として楽しめるルートづくり、また、それぞれの地域で参加型のもの、見るだけではなく楽しめる観光ができないかどうか等について、県あるいは広域で連携をしながら進めていくことにしています。

物産・食・観光魅力発信では、観光物産展や豊後料理です。

地域の郷土料理で、だんご汁やとり天、やせうまなどおいしいものがたくさんありますが、そういうものを「豊後料理」という形で発信できないだろうかと考えています。特に、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭やラグビーワールドカップといった外からたくさん人が訪れるときに、豊後料理という形で印象を持ってもらうという取組です。

また、観光物産展については、本来は大分市物産センターといったものが、東京や大阪などの大都市にあるといいのですが、非常にランニングコストがかかります。そこで、デパートに大分市ブースを常設してもらい、そこに行くと、ザビエルなどの大分の物産が買えるという取組をまずはしていきたいと思っています。

そして、「次なる時代を見据えた新たな魅力の創造」ではありますが、これは五つに分かれています。

まず、1番目の個性を生かした魅力ある地域づくりです。

現在、地域まちづくりビジョンを策定しているのですが、13の地域で魅力を

掘り起こし、それをどのように活用して、どのようにまちづくりをしていくかというものです。6月に提言される予定なので、ここで計上している2,200万円は、印刷物などの啓蒙普及をしていくための予算です。今後は、これに基づいて、次年度以降に実行していくための予算を考えていきたいと思っています。

そして、大友氏遺跡の整備・活用です。まず、大友氏遺跡の保存と庭園整備ですが、大友氏遺跡体験学習館を含め、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭のときにある程度使えるように、そして、ラグビーワールドカップのときには庭園を完成させたいということで進めています。あわせて、宗麟公まつりなど、親しみを深めたり認知度を高めたりするためのイベントを引き続き行いたいと思っています。

次の、大分城址公園の整備・活用ですが、大分城址公園仮想天守イルミネーションは2月14日まで行いましたが、かなり好評だったと考えています。レンタルしている仮想天守部分をどうするかについて最終的に決定されておりません。そして、4月以降、これも予算との関係になりますが、私どもは改めて点灯してはどうかと考えています。国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭やラグビーワールドカップ等いろいろなイベントに向けて、大分の魅力的なスポットのひとつになったのではないかと評価をもとに、一度取り壊してまた作り直すよりも、今のまま使ったほうが費用的にも安いということで、継続したらどうかと考えています。また、桜の整備ややぐらの改修等の予算ということで2億5,500万円を計上しています。

祝祭広場については、第一次選考会で五者に絞られており、3月24日に第二次選考会を公開プレゼンテーション形式で開催して決定します。決定後の詳細設計と建設の費用として4億1,300万円を計上し、来年の夏までに完成してラグビーワールドカップに間に合わせる予定としています。

それから、JR大分駅の東側にある22街区、54街区ですが、今年度、民間事業者から何に使うと有望か聞き取るサウンディング調査を行いました。その結果に基づき、さらに詳細に調べる必要が出ています。例えば、22街区では交通結節ターミナル、54街区では民間主体で使ったほうがいいのではないかという調査の結果が出てきています。そして、旧荷揚町小学校の跡地については、市役所に近いことから、公的な機能も入れた使い方がいいのではないかということで、そういった報告結果を踏まえて、さらに検討していきます。

鉄道残存敷というのは、もともと線路が敷いてあり、高架化により生じたものですが、現在、県の所有になっています。これを県から譲渡を受けて、全部、市の所有になります。そのうち、東側のJR大分駅から大友氏遺跡までを道と公園的な使い方になるようなものに整備をして、そこに自動運転バスを走らせようということで検討を進めています。西大分まで延びる西側についても、まちのにぎわいを創出できるような有効な使い方をしたいということで検討しているところです。

大分川ダムについては、完成に合わせて交流拠点の整備、それから材料をとっ

た材料山が平地になりますので、いろいろな交流ができる多目的広場の整備を7億5,000万円をかけて進めたいと思っています。

2番目の個性豊かな文化芸術の創造と発進についてです。

まず、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭ですが、大分市の実行委員会主催の事業が大部分で、リーディング事業となる「回遊劇場～ひらく・であう・めぐる～」を6,000万円で行う予定にしています。今、大分キャンバスという中心市街地循環バスが走っていますが、そのルートの上に、モザイクアートやウォールアート、ギャラリー、パブリックアート等を整備して、大分キャンバスに乗ってぐるっと回ってもらおうと、アートで飾られたまちが楽しめるというものです。分野別事業としては、新しいものと今までやっていたものをさらに拡充するという事です。ちなみに、豊後FUNAIミュージカルでは「宗麟の海」を上演いたします。

そして、ワールドマーケットの開催ですが、世界中から訪れている留学生の皆さん、APU（立命館アジア太平洋大学）の学生が中心になると思いますが、そういう方々に、この期間、ワールドマーケットとして屋台等を出してもらおうということです。

それから、別府のアルゲリッチ音楽祭が20周年になりますので、大分市も積極的に参画をしていこうということです。これは1,000万円です。

3番目に、スポーツの振興です。

ラグビーワールドカップに向けた取組について、駄原総合運動公園の整備、外国人観光客の受け入れ等の取組、そして、市営陸上競技場の改修があります。県とJリーグでまだ協議中だと思いましたが、先日、Jリーグの事務局が市営陸上競技場を視察しました。ラグビーワールドカップ開催のときに大分銀行ドームが使えないので、その間、大分トリニータがどこでホームの試合をするかという話から、私どもとしてはほかの県に行くのではなく市内で行ってほしいと思っています。Jリーグの事務局からは、記者席やロッカールーム、トイレなどについて指摘をいただいています。その部分を改修し、市営陸上競技場としては開催できるような体制を整えたいということで、4,400万円を計上して、大分トリニータがラグビーワールドカップ期間中にホームの試合を市営陸上競技場で行えるような取組をしていきたいと思っています。

それから、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けての取組としては、スロープや手すりをさらに整備して、障がいのある方、車椅子の方もまちを動けるようにするというユニバーサルデザインのまちづくり、それから、強化指定選手の支援ということで、大分にゆかりがあってオリンピックに出る可能性のある選手へのさらなる支援、事前キャンプの誘致といったことを進める予定にしています。

OITAサイクルフェス2018については、クリテリウムとロードコースの両方を国際自転車競技連合の公認レースとして認定をいただき認定証をもらいましたので、いよいよ新年度から国際レースとして開催をする予定です。

4番目は広域交通ネットワークの強化です。

豊予海峡ルートについては引き続き調査を進めていきます。1年目が橋とトンネルについて、鉄道と道路の両方で調査をして、2年目はその鉄道の単線案を掘り下げて調査をしました。いずれもいろいろなところで取り上げてもらい、私も、今年になって、延岡市長や日向市長、香川県知事等と意見交換をしています。香川県知事と話をしたときには、高松市長からよく話は聞いているということで、四国でも、大分から豊予海峡の話が出ていることについて、かなり認識を高めていただいていると思っています。

ちなみに、2月9日に四国で「新幹線で四国はこう変わる」というシンポジウムがあったのですが、そのときに、祝祭広場設計候補者の選考委員会の委員長の羽藤英二先生が講師で呼ばれておりました、大分市が行った調査の中身を詳しく説明してくれました。また、今度は香川でシンポジウムを行うとのことで、四国のほうはかなり力を入れて取り組んでいるという状況です。このようにして、四国との連携をしっかりと進めていきたいと思っています。

それから、地域交通ネットワークでは、バスを使って、鉄道の駅を拠点としたネットワークの検討や、地区拠点を中心とした循環型交通の実証を3カ所で行う予定にしています。

最後に、5番目の地球環境への配慮です。

水素エネルギーについては、新産都の企業等との連携により、水素エネルギーの活用のためのいろいろな取組を引き続き行っていきたいと思っています。

《2. 平成30年4月実施機構改革（案）》

上下水道局の設置、英語教育推進室の設置、清掃管理課等の見直しの説明は11月にしていますが、あわせて、商工労働観光部の中に「おおいた魅力発信局」を新たに設置します。これは、特に商工労働観光部と農林水産部が中心になりますが、いろいろな魅力発信の事業があり、部局横断的な連携をしながら取り組んでいくものが多いことから設置することになりました。フィルムコミッションやMICEについてはこの局の所管となります。その他、それぞれの課が行っている事業について連携を図るための調整をしていくということで、さらに魅力の発信を進めていきたいと思っています。

《3. 中心市街地循環バス「大分キャンバス」を水戸岡鋭治氏のデザインでリニューアルします》

現在、市美術館と県立美術館をキャンバス地の白いバスが走っていますが、3台全部を水戸岡鋭治先生のデザインでリニューアルします。

3月29日に、完成発表会と車両展示を行います。場所は、大分駅府内中央口広場で実施します。水戸岡鋭治先生にも出席をいただき、私も出席します。運行開始日は3月30日です。

事業主体は大分バスと大分交通になりますが、事業費について、大分市からバ

ス事業者へ補助をするということであります。

「ななつ星 in 九州」などの雰囲気を持ったバスになっています。「ななつ星 in 九州」に乗ってみたいけれども時間がない方や、水戸岡鋭治さんの世界を経験してみたいという方は、この大分きゃんバスに乗っていただくと、そういう雰囲気を味わうことができます。また、大分きゃんバスのルートは2つの美術館の間だけではなく、大分城址公園の前など中心市街地の魅力的なところやきれいなところを運行しておりますので、大分市のまちなかの魅力に触れたいという方々にもぜひ乗っていただければと考えています。

今までの調査を見ますと、特に市美術館が中心部から少し離れていますので、100円で乗れるこのバスを利用される方が多いようです。28年度だけで6万人の方に利用していただいております。1便当たり平均で8.35人の方に乗っていただいていることとなります。バス自体の魅力をさらに高めることで、大分きゃんバスを利用してまちなかをめぐっていただく方が増えるとありがたいと思っています。

《 4. 大分市中心市街地祝祭広場整備事業設計候補者選考に係る公募型プロポーザルにおける第二次選考会（公開プレゼンテーション）の観覧者または投票者を募集します 》

大分市中心市街地祝祭広場整備事業設計候補者選考の第二次選考会を3月24日にJ:COM ホルトホール大分の大会議室で行います。

15者の応募があったうち、第一次選考会で5者に絞っており、この5者から、こういうふうに祝祭広場の整備をしたいというプレゼンテーションをしていただきます。それを公開するというので、募集は250人、投票は小学生以上としています。申込期間が3月1日から15日まで、応募多数時は抽選となります。

スケジュールですが、3月24日に最終審査となる第二次選考会を行って、来場者に投票もしていただき、当日中に結果を発表いたします。3月末に契約を締結し、6月にデザイン案の説明、7月から工事に入り、1年間で完成するという予定になっています。

選考委員会のメンバーは、羽藤英二先生が委員長、そして磯崎新先生が特別選考委員でこの事業のアドバイザーになっていただいております。この委員の方々の審査に、来場者の投票も含めて決めていただくこととなっています。

ちなみに、先ほど、エンジン01文化戦略会議「オープンカレッジ in 大分」の講師の方々はボランティアで無償ですというお話をさせていただきましたけれども、こちらの磯崎先生も、故郷の広場の整備ですからということで、無償で特別選考委員になっていただいております。

《 5. 大分城址公園仮想天守イルミネーションに伴う市民アンケート結果（速報値）をお知らせします 》

大分城址公園仮想天守イルミネーションですけれども、結果としては非常に好評だったのではないかと考えています。昨年12月27日に点灯式があり、2月14日までということで実施しました。

期間中、大分城址公園と大分駅府内中央口広場の2カ所で、約1,200人の方にアンケート調査を行いました。4月1日以降も実施してほしいという方が、合計しますと80.9%で、特に大分駅府内中央口広場のほうが88.5%と高くなっています。それから、歴史への関心がかなり高まったという方が多いですね。また、大分城址公園仮想天守イルミネーションの認知度は81.6%でかなり高かったと思います。大分城址公園にどのくらい関心があるかについては、半分以上の方は関心があるということです。天守の復元については、いろいろなご意見がありますが、復元したほうが良いというご意見が、特に大分城址公園を訪れた方には多いようです。

期間中の来場者は3万人ということでした。イベントもいろいろ行いまして、皆既月食を見る会や節分など、七草がゆやお汁粉も用意しました。実際につくるのは学校給食の皆さんで、釜は民間の企業が貸してくれたのですが、2,000食や1,000食が1時間ほどであっという間になくなってしまったということもありました。

エンジン01文化戦略会議「オープンカレッジ in 大分」のときは、大分城址公園でディアフレンズがコンサートをして、それを県庁13階のレストランぶんどでの夜楽の参加者が見ている、講師の一人であった奥田瑛二さんが「非常にきれいだな」と言ったということもありました。

非常にたくさんの方に来ていただき、商店街の皆さんからも、これにより、大分駅前だけでなく、商店街をずっと歩いていく人の流れができたと言っていました。そういう意味では、回遊性や滞留性も高まったかと思っています。何より、エンジン01文化戦略会議「オープンカレッジ in 大分」をはじめ、外から来ていただいた方々からも非常にきれいだったと言ってもらい、魅力あるスポットのひとつになったのではないかと評価をしています。

開始するときに、アンケートの調査結果を踏まえて新年度はどうするかを考えますというお話をさせていただいておりましたが、こういった結果が出たことと、それから、足場のところはリースですが、リース企業に3月まで協力していただけるということもありまして、一度壊して、また国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭のときにつくるよりも、そのままのほうがコスト的に安くなるということです。引き続きということで検討をしているところです。

《 6. 野津原東部小学校、野津原中部小学校、野津原西部小学校が閉校し、野津原小学校が開校します 》

野津原東部小学校、野津原中部小学校、野津原西部小学校が閉校します。それぞれ、明治時代以来の歴史のある学校ですが、4月からは新たに野津原小学校として、児童163人で開校します。閉校する3つの学校の閉校式を3月25日

に、そして、4月9日に野津原小学校の開校式を行う予定にしています。

閉校した小学校については、今市小学校も地域の振興にいろいろな活用を検討していますが、野津原西部小学校と野津原中部小学校はどちらも大分川ダムに非常に近いものですから、ダムや交流施設、広場などと一緒に、地域の振興に役立つ形で活用したいということで、地域の皆さんからもご意見をいただいております。例えば佐賀関では、大志生小学校はアートを使ったまちづくりのための拠点になりそうですし、木佐上小学校は地域コミュニティセンターで、日本文理大学の学生も入って活用されていますが、そういった地域の発展につながるような活用方法を地域の方々と一緒に考えたいと思っています。

私からは以上です。